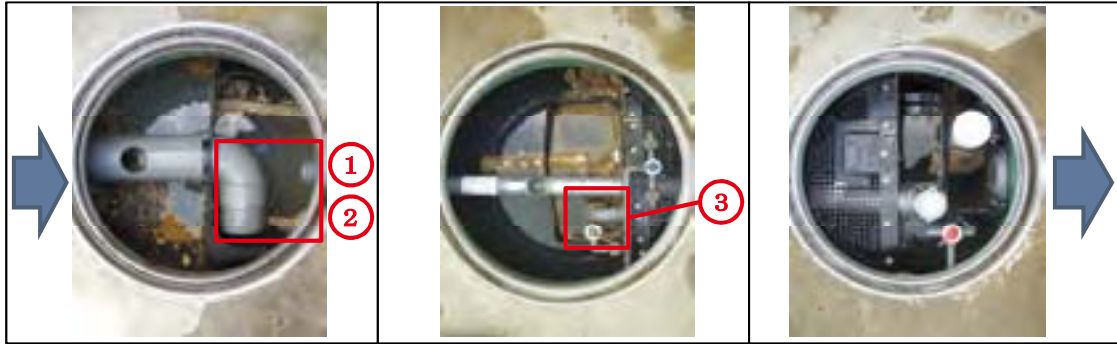


性能評価型(事例21) 逆洗回数と移送水量を減らした事による水質改善事例

【槽内状況】



維持管理要領書より 7人槽 逆洗1日2回(1回5分) 間欠定量ポンプの移送水量4.2~4.5ℓ/分(20秒)

事例番号	21		浄化槽メーカー	大栄産業(株)		
処理方式	性能評価型 窒素除去型		浄化槽型式	FCS-II		
法定検査日	平成 24 年 8 月 31 日		人槽	7人槽	使用人員	6人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	1	0	—	0	透視度	18度
堆積汚泥厚(cm)	53	13	—	7	DO	4.3 mg/ℓ
透視度(度)	7	14	13		pH	7.1

法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	逆洗時の移送汚泥は密度が低く薄い。 間欠定量ポンプの稼働サイクルが50秒と長くなっている。 槽内水位HWL 逆洗設定:1日2回(1回5分) バルブ設定:全て7人 移送用・循環用・逆洗用 日平均汚水量1.47m ³ /日 採水時間10:10				
	対策	1室の固液分離機能を高める為、逆洗回数を1日2回から1日1回に変更する。 間欠定量ポンプを点検後、設定を5人に変更し移送水量を抑える。 透視度が回復するまで循環水量を停止する。				
保守点検からの措置 返信内容	9月4日	指示通り調整する。 間欠定量ポンプに付着したスライムを除去する。 移送水量5人に変更し稼働サイクル30秒確認する。			透視度	20度
					DO	4.6 mg/ℓ
					pH	7.0
	9月18日	透視度回復しました。			透視度	47度
				DO	5.2 mg/ℓ	
				pH	7.0	

【ポイント】



逆洗時の移送汚泥の状況
汚泥は薄い。

移送汚泥をメスシリンダー(10)に採り、
30分後、28%(密度が低い)

間欠定量ポンプの状況
スライムの付着多い。
毎回の保守点検時に洗浄が必要。